

山岳科学総合研究所 友の会公報

2012年3月 第3号



画：上條慈美

もくじ

第1回会員現地研修会報告	2
会員リレーコラム	3
• 上條慈美 「乗鞍現地研修会に参加して」	
• 細萱 繁 「楽しかった乗鞍高原研修会（概況報告）」	
• 島村芳太郎	
2012年度春から初夏の事業計画概要	5
おしらせ	6
編集後記	6

第1回会員現地研修会報告

2月11、12日、乗鞍高原において友の会第1回現地研修会を開催しました。その概要を報告します。

11日は信州大学から車に分乗して、途中で会員を拾いながら乗鞍高原に向かいました。14時30分、現地集合の参加者も宿泊所である「乗鞍寮」にそろい、早速施設の使用ルールなどを管理人からミーティングを受けた後、荷物を整理してみんなですろって乗鞍学習をしました。会員が乗鞍の歴史や観光などについて話をし、そのあと参加者のフリートークで盛り上がり、上々のスタートとなりました。

16時ころから、温泉に浸かったりして少しくつろいだあと、全員で夕食の準備です。

メインメニューは「山鍋」ということで、野菜を刻み、肉を切り土鍋に様々な具を取り混ぜた特製鍋ができました。参加者からはおいしい飲み物や様々なつまみもたくさん寄せられ、夕食会は賑やかになりました。宴席もたけなわとなり小腹もすいたところで、これも



スペシャルメニュー「とうじそば」をいただきました。そばは奈川産で純手うちです。あっという間に平らげてしまいました。そのあとひと片付けして三々五々寝床に行ったり、二次会で語り合ったり、外の寒さはなんとやら、身も心も暖かく夜は更けていきます。

2日目、起きてみたら10cmほどの新雪が積もっていました。朝食を食べ午前中はスノーシューとスキーに分かれ、乗鞍の自然を楽しみました。

スノーシューの班は、一ノ瀬園地を一回りしてきましたが、積雪が40cmほどと例年の半分以下しかなく、ちょっと残念！屋前に宿舎に戻り、温泉に浸かり前日に仕込んで



でおいたカレーで腹を満たし、休憩して隅々まで掃除をして13時過ぎ帰路に。全員無事に帰ってきました。

今回は申込17名、風邪や都合で当日14名の参加者でしたが、会員同士の深い交流ができたと思います。今後もこうした宿泊を伴った研修会は幾度か計画されますので、ぜひ参加してみてください。結構楽しいですよ。(事務局)

とうじそば

山間地では水田が発達せずそばが主食であった昔、臼で挽いたそば粉は様々に加工されて貧しい食卓に上った。冬の定番は体が温まる「とうじそば」で、昨今のようにだしの効いた汁に具を入れ込んで食べるものとは違い、干菜（若い野沢菜などを乾燥させて保存しておく）の味噌汁が主流だった。

湯がいて冷水でしめ、しっかり水を切った太めのそばを、根曲り竹などで作った「とうじかご」という小さな籠に適量入れ、手早く汁にとうじ、器に盛って薬味などを添えていただく。

(とうじそばの語源 おとうじ＝湯に通す＝湯通し＝そばを汁に湯通しする)

リレーコラム



乗鞍現地研修会に参加して



「植生の豊かな森をみたい！」山を歩いていても、いろんな樹木や花が咲いているとうれしい。そんな風に様々な年齢、経歴、得意分野や山への思いを持った（個性あふれる？）人々が集まっていた。

私にしても麓であれば雑草みたいなものだけど、今回に限ってはたまたま女性一人で・・・でも「高嶺の花」ではないから「希少種」として、珍重していただけたようだ。

以前、科学的な面ではなく、民族的な面から日本人にとっての「森」や「木」の話聞いたことがある。「木」という言葉は元々①気②生③酒など同一の言葉と考えられるという。

- ① 気 木には「気」が宿っている。 元気の気
- ② 生 生一本の「生」木霊は木精とも書き、木精はアルコールの意味。純粋酒を生一本という。
- ③ 酒 お神酒（みき）「酒」（き）

それらを考えると・・・まさにあらゆる面から「木」を取り揃えた乗鞍研修会だった。

朝からスキーを楽しんで集合された「元気」な方。「食」では、皆で囲んだ鍋や美味しかった奈川のとうじそば、それに伝統野菜保平蕪などの自家製の漬物もいただき、食文化にも触れられた。

学生会員のテレビでしか見たことのなかった豪快な食べっぷりにも感心した。参加者の心のこもった持参品と、会長からの差し入れや各地の地酒に舌鼓をうちながら、乗鞍の自然や歴史のあれこれに耳を傾け飲んで、食べてまた飲んで乗鞍の夜は楽しく更けていった。

二日目はスノーシューでの自然観察に参加した。ヤマウルシの果実や葉痕、ムラサキヤシオやサラサドウダンの花芽、尖って長いツリバナの冬芽など雪の中でも植物はしっかり春の準備をしていることを感じた。

赤い小豆のような冬芽はシナノキだった。シナ布やかかつてその強靱な繊維は牛の鼻輪や追い綱に使ったことなど、地元ならではの話が聞けた。

樹勢が衰えマツボックリをビッシリつけて子孫を残そうとする天然カラマツや、真っ赤な実をつけたナナカマド、そして黄色い実をつけた宿り木の生き残り戦略など興味深かった。

また、樹皮の特徴から樹種同定することや、標高での樹種分布の変化なども教えていただいた。葉っぱがないこの時期だからこそできる観察会だ。

実物には会えなかったが、ノウサギやリスの足跡を追いながら凍ったアザミ池を渡って、ウサギの頭部によく似たオオカメノキなど多くの冬芽に出会い、小大野川では厳寒が作り上げた河床の氷の造形を堪能できたひと時だった。

親睦を深め、自然を満喫した2日間でした。ありがとうございました。また参加させていただきます。（今度はもっと女性の方も一緒に楽しみましょう！）

上條慈美



楽しかった乗鞍高原研修会（概況報告）



今や流行、初体験のスノーシューで厳冬の山野を歩き回ってみたいくなって、研修会に参加した。

2月11日、いつにない穏やかな冬晴れの松本を出掛けたが、高原は日差しはあるものの地吹雪の異郷であった。この寒風を負けて早速日程変更。外出を取り止め、ぬくぬくの座敷に参加14名が車座になって、酒盛りを始めてしまった。摘み物語は「北ア・乗鞍岳とは」で、山岳案内人の話題提供には含蓄があった。日没までの2時間、居合わせた仲間の雰囲気は和んだ。

次は料理人の腕前発揮と、チームワークで山鍋を囲む食卓が整って、改めて乾杯。順繰りで自己PRに談笑が断えず、延々深夜まで続いた。

風の音で目覚めたが、若手研究者達にはきつい朝がやって来てしまったようだ。手早く朝食の支度、朝餉もよく箸が進む。8時をすぎると、風雪が収まってきた。ゲレンデスキー組、スノーシュー・雪採取組、のんびり滞在組とに別れて、活動開始。

私共5人は、林道から雪野原、起伏のある林間遊歩道への循環コースを辿った。オニグルミの落葉痕跡はサルやヒツジの顔に似ている。何の樹木も早、冬芽を膨らませているのではないか。梢の宿り木は遅しい。虫と鳥とが織りなす樹皮が剥がれた枯れ木の造形美。小雪で、風衝地の熊笹は立ち枯れてしまっていた等々、研究員のひたむきな雪採取作業も眺め、冬ならではの自然観察は驚き続きである。汗を掻きながらの白銀の世界を3時間余り、喜びに浸れ、病み付きになってしまいそうだ。帰館後温泉に浸り、感激と至福の高原を惜しみつつ、日常生活の場に帰ることにした。

今次の長けた生活の知恵袋を持ち合わせる案内人・料理の達人に、只々感謝申し上げます。

会員の皆様、次の機会には是非ご参加下さい。友の会の行事は楽しいですよ！

細萱 繁

?上高地クエスチョン?

ケショウヤナギ

上高地の梓川沿いに群生また散生しているケショウヤナギ。芽吹きを前に梢の赤と若枝の白蠟色が際立っています。上高地では1927年(昭和2年)に発見されましたが、実は梓川のずっと下流松本市波田の河畔でも1949年(昭和24年)発見されています。

波田のケショウヤナギは上高地の下流ということで、同種のものだとばかり思っていました。遺伝子調査の結果、異種だとのことを聞きました。いかがでしょうか。

我が国のケショウヤナギは、北海道十勝地方の一部と上高地に自生し、河川の氾濫により更新していきます。

上高地の梓川は周囲の山塊から大量の土砂が供給され、ケショウヤナギの更新生育には適しています。友の会でも上高地の植生を学ぶ機会を作りたいと思います。





木曾町福島（旧木曾福島町）の島村と申します。

山岳科学総合研究所については、新聞で知りました。気軽にシンポジウム等を拝聴できることに感謝しています。日本の

3,000 m級の山岳エリアの麓に存在することは、各種の研究活動においても大へん貴重な意義を持っていると思います。



信州大学といえば、小学生の時に附属病院の眼科へ来たことがあります。当時は木曾福島から、松本までは、中央西線の汽車（蒸気機関車）を利用するのが、唯一の交通手段でした。煙突からの煙を見ていると力強さを感じたものでした。家に帰っても石炭のニオイが残っているような気がしました。子供の頃から、野、山を駆け巡るのが好きで、高校生の時は、上高地へ友人とオートバイで、木曾から境峠を越えて、ツーリングをしたことがあります。途中、釜トンネルで前に行くバスの土煙で、視界が悪くて、この先の道路状況を案じているうちに、やがてバスターミナルの駐車場に到着。しばらく歩いて行くと釜トンネルでの不快感をよそに、河童橋を前景にして、穂高連峰のすばらしい眺望と風のさわやかさに感動したのが第一印象でした。また、上高地へは年に数回、大正池で下車し、明神橋経由でバスターミナルまで写真撮影をしながら、散策します。程好い運動になります。

これからも山岳科学総合研究所の活動を微力ながら、サポートしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。私の祖父が松本市の出身ということもあってか、今限りなく松本にかかわっている自分いることは、何かの縁だと思っています。

PRになります。会員の皆さん、「木曾御嶽山」にもぜひ来てください。そして最近クローズアップされている、健康食品の「木曾のすんき」もよろしく願います。

島村芳太郎

2012 年度春から初夏の事業計画概要

1. 現地研修会

「南アルプスの麓で学ぶ」1泊2日で計画します

期日：5月12・13日（土・日）場所：大鹿村・飯田市

見学場所：中央構造線博物館・安康露頭・大西山（深層崩壊跡地）・しらびそ高原・御池山隕石クレーター・下栗（日本のチロル）

宿泊：風の学舎（自炊）

お昼：ジビエ料理・そば

会費：実費（交通費は原則会負担）

※総会日の講演会で得た事前知識を現地で確認できる機会です。南信濃の爛漫を楽しみましょう。

2. 会員特別講座

「上高地の成り立ち」1泊2日上高地ステーションを核に楽しく学びます。

期日：6月16・17（土・日）場所：上高地一帯

内容：信州大学理学部原山先生を講師に、地質学上での上高地の成り立ちについて、現地を歩きながら教えていただきます。

※夜は上高地ステーションをお借りして、会員相互の親睦を深めます。（日帰り可）

お・し・ら・せ

◎2012年度友の会通常総会の開催について

葉書でも別途お知らせしましたが、下記のとおり通常総会を開催します。多くの皆様のご出席をお願いします。

期日：4月8日（日）

日程：15時～通常総会 16時～第2回憧憬の森講演会

講演会講師：坂本正夫先生

講師略歴 信州大学教育学部卒 県内で教員を勤める

長年の研究により、飯田市上村御池山で隕石クレーターを発見、

国際的に評価される。 現在：飯田市美術博物館 専門研究員

会員交流会：17時30分～

会場：「民芸すなっく いなほ」（松本市中央3-3-5 TEL0263-36-3717）

会費：5,000円（学生会員3,000円）

◎新年度事業計画について

現在運営委員会で検討していますが、2年目は会の基盤作りとフィールドで学び感ずることができるような研修や講座、また子供たちのための体験学習、さらには研究所の活動を支援していく仕組み作りを考えています。

前期事業計画の一部は5ページ下段のとおりで、総会で協議いただきますが、事前に会員の皆様からのご意見・要望があれば計画に反映してまいりたいと思います。

ご意見などありましたら3月26日までに事務局までお寄せください。

◎上高地開山のお知らせ

2012年度上高地入山は4月20日（金）の予定です。（上高地公園線が開通しバスの運行が始まる日です。）ちなみに、恒例の上高地開山祭は4月27日（金）今年で44回目となります。

◎会費納入のお願い

すでに事務局から会費納入の案内が届いていると思いますが、3月末までに所定の用紙により納入くださるよう改めてお願いいたします。

編集後記

東日本大震災から1周年です。何もない平穏な暮らしに感謝しながら、一日も早い復興を願わずにはられません。

表紙の風景画は会員の上条慈美さんの作品です。2月の乗鞍高原現地研修会の折に心にスケッチされたそうです。乗鞍岳の双峰（剣ヶ峰・大日岳）の右に、白樺に寄生したヤドリギも描かれています。素敵な絵に感謝です。

会報の表紙に会員の皆様の写真や絵を掲載したいと思います。自慢の作品をお寄せください。（自家印刷なので思ったような色は出ないと思いますが・・・）

会報も3号まで出すことができました。いまだ試行錯誤で満足のいくものではありませんが、会の事業と会員の交流を主題に編集していければと考えています。

皆様のご意見、提案をお待ちしています。 （友の会会報編集委員会）

山岳科学総合研究所友の会会報 第3号

発行日：2012年3月15日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp